



15 座標表示

ツールの呼び出し方

メニューバーからSCP→SCPランチャーを立ち上げ、「座標表示」のアイコンを選択します



座標表示のアイコンを選択します

作成方法

各項目を設定後、画面上で任意の地点の座標を表示します

座標表示ツールは、予め作成した原点を基点とした3次元座標値を3Dおよび2D上に表示する機能です

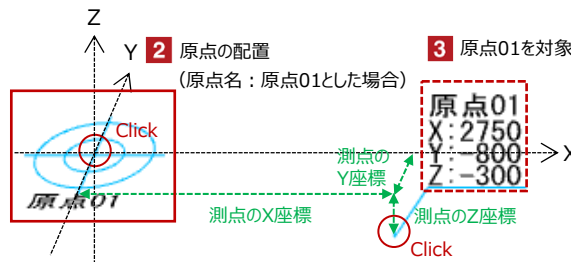

1 配置するレイヤーを選択します

2 任意の原点名（例：原点01）を入力し、（原点配置ボタン）をクリック後、任意の地点に原点を配置します

3 配置した原点名を選択してから、測点名を入力し（下段は枝番付き測点名）

（測点配置ボタン）をクリック後、任意の地点に測点座標を表示します

※CSVで出力するため、原点名、測点名には「,」（カンマ）を使用しないでください。



< その他のダイアログ >

4 下段の測点名の次の枝番を表示します。

5 連続にを入れると座標を連続で配置できます。

6 表示する文字サイズの設定

7 表示する座標系の選択

8 座標表示方向の選択

9 座標オブジェクトの表示位置変更

を入れると吹き出し線の終点を基準に左側に座標オブジェクトを表示します（デフォルトは右側）

10 測点座標への原点名の表示・非表示切替

を入れると、測点座標に原点名が表示されます

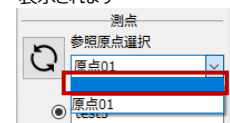
11 測点座標へのXYZの表示・非表示切替

を入れると、測点座標にXYZが表示されます

12 現在の視点に合わせた表示の回転（3Dのみ）

クリックすると、3D上で現在の視点に合わせて表示が回転します

 ※ **9** にを入れると原点名が表示されます

 ※ **3** の原点選択時に空白を選択した場合は、ARCHICADの原点を対象とした測点座標が表示されます


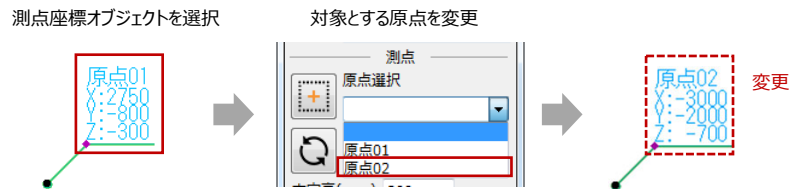


編集方法

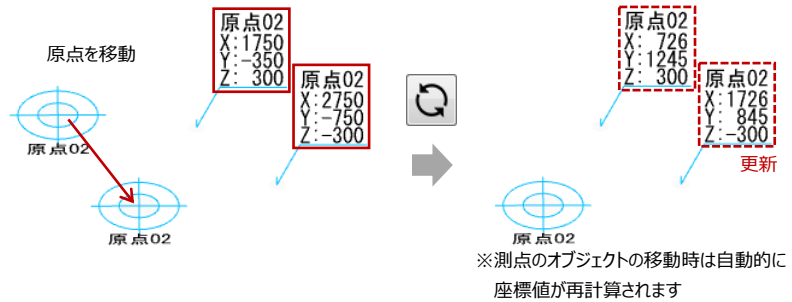
配置した測点座標オブジェクトの表示内容の変更や座標のエクスポートなどが可能です



- 1 対象とする原点の変更
測点座標オブジェクトを選択し、原点を変更します



- 2 原点移動後の計算結果の更新
原点を移動後、[リフレッシュ] をクリックすると、移動した原点を対象とした測点座標値が全て再計算されます



- 3 座標のエクスポート/インポート
座標エクスポートを押すと配置した座標をcsv形式で出力できます
csvファイルを読み込んで図面内の原点や測点の更新、および新規作成ができます
csvファイルには(Global)と(Local)がありますが、必ず (Global)と書かれた項目の数値を変更します
[参照原点]に別の原点名を入力すると、測点の原点を変更できます

[原点]	x(Global)	y(Global)	z(Global)		guid			
原点01	1937.4	3682.1	300		EADC0862-DE1B-491D-ADE8-6194A2E56EA0			
[測点]	x(Global)	y(Global)	z(Global)	x(Local)	y(Local)	z(Local)	参照原点	guid
test1	9069.9	-2000	3000	7132.5	-4921.6	0	原点01	02405BCB-5F3D-4BD4-B515-85DCE19B2C70
test2	6359	3682.1	300	4421.6	0	0	原点01	845DB636-1456-4BD4-A868-4C625DAF646C

設置基準

座標オブジェクトの設置基準は、配置時にクリックした位置です

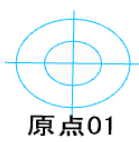
配置フロアは、2Dで作成した場合は[当該フロア]に、3Dで作成した場合は[1F (フロア番号=1)]になります

< 原点の表示例 >

▶ 2D



▶ 3D



< 測点座標の表示例 >

▶ 2D



▶ 3D

